

3人を救え！ 自衛隊は撤退せよ

政府は撤兵を決断すべきです。もともと自衛隊は、無法な戦争を支持した日本政府が、米軍の占領を応援するために派兵したのです。政府の行為の犠牲にさせてはなりません。

自衛隊の撤退は、占領をやめ、イラクに主権と平和を回復するためにも、3人を救うためにも、必要なのです。テロに屈するようでは、ありません。

イラクで8日、民間の日本人3人が「ムジャヒデン旅団」を名乗るグループの人質にされ、自衛隊撤退の要求を受け入れないなら殺害すると脅迫する事件が起きました。いま、一番大切なことは、一刻も早く自衛隊の撤退をすることです。

もともと自衛隊派兵は間違い

もともとイラクに自衛隊を派兵すること自体が大きな誤りでした。無法な戦争を支持し、アメリカの軍事占領に参加するのが目的でした。

人道支援に役立たず

自衛隊は復興支援をしているといいますが、給水支援にしても、わずかなもの。もともと軍隊は戦争の訓練はしていますが、復興支援に不向きです。

人道支援の妨害

自衛隊が派兵されることで、イラクの人たちは日本のイメージを「アメリカの味方」と敵視し始めました。だからイラクで人道支援しているボランティアは「迷惑な話であり、危険だ」と心配していたのです。



NGO代表も復興支援に自衛隊は不向きと証言

「軍队的なものが『人道復興支援』に関係することで人道援助自体がゆがみ、中立性が失われる。さらに自衛隊のような『自己完結型』部隊がおこなっても、成功しない可能性が強く、現地雇用にもつながらず、費用対効果も悪い。人道復興援助は国連、国際 NGOでおこなうべきだ」

(国際ボランティアセンター代表 熊岡路矢氏
国会での陳述から)